

牧師室から (2020. 11. 1)

本日 11 月 1 日は、カトリックでは「諸聖人の日」である。プロテスタントの側でも 11 月初めの頃に逝去者記念礼拝を行うことが多い。またそれに先んじて 10 月最後の頃には宗教改革記念礼拝を行いもする。ご存じのようにルターが 10 月 31 日の夜に 95 か条の意見書を教会の扉に貼ったと言われていることから来ている。彼は翌日に多くの市民が教会に集うことを考慮して、そこで目に付くように図ったのである。このテキストは翻訳され、2 週間のうちにヨーロッパ中に波紋を広げた。確かに印刷術が発明されたこともあるが、当時はテレビ、ラジオ、インターネットや SNS などない時代であるのにこの伝達の速さと広さには驚くしかないし、本人も驚いている。

明後日 11 月 3 日 (火) はアメリカの大統領選挙であるが、それに先んじて候補者のテレビ公開討論会が行われることになっていることは周知である。今日メディア(媒体)というのが情報伝達の手段、道具という補助的な領域を超えてその影響力があることは看過できない。

コロナ禍の当教会においても、初めの頃、礼拝の集会ができずにインターネットでのホームページを活用し、多くの反響があったことは感謝でもあった。勿論送信する内容が大事であることは言うまでもないが、時代に即したメディア活用というのも大事であると思った。

「♪すべての人にのべ伝えよ、神の賜える良き知らせを。・・・地の果てまでも告げ広めよ。」(讚美歌 21-405)

(鈴木淳一牧師)